

子どもの症状別に、気をつけたいポイントやお家で出来る正しい対処法を先生に教えて頂きます。

今月のテーマ

小児の副鼻腔炎(ちくのう症)

<対象年齢/0～6歳>

いつまでも続く鼻水は風邪のせい？
副鼻腔炎からくる鼻水に注意！

寒

くなると鼻水を垂らすお子さんが増えます。病的な鼻水を放置した場合、副鼻腔炎になる事が多く治療が必要になります。副鼻腔炎は、鼻風邪の後に発症するケースが一番多いのですが、アレルギー性鼻炎の悪化や、虫歯が原因になることもあり、中耳炎や頭痛、歯の痛み、長引く咳の元にもなります。小児の場合、抗生剤や膿の排出を促進する薬の服用、鼻処置と鼻ネブライザーが治療の主体で、2～4週間程度の治療期間で多くのケースは治癒します。ただし慢性化していたり、アレルギー性鼻炎を合併している、治療が長引くケースもあります。毎日通院す

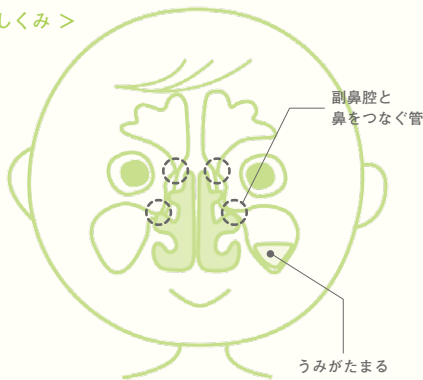
る必要はありませんが、根気よく通院することが大切です。副鼻腔炎が治りにくい理由としては、栄養の偏りや生活環境、体質や顔の骨格、遺伝などの要素や、園などで他の子どもの菌が感染し、治りかけていた副鼻腔炎が再び急性化してひどくなるのを繰り返していることもあります。アレルギー性鼻炎、鼻のポリープなどが原因で治りにくい場合は必要に応じて、鼻の内視鏡検査や細菌検査、アレルギー検査などを行います。副鼻腔炎と診断されますと「手術になっちゃう」と誤解されますが、子どもの場合、よほど重症でない限りは手術にならないので安心してください。

副鼻腔炎(ちくのう症)とは？

鼻の周りにあり、鼻の中と繋がっている4種類の空洞を合わせて「副鼻腔」と言います。風邪をひいたり、鼻炎になると、粘膜が腫れて、鼻の穴と副鼻腔をつなぐ細い管(下図の丸い部分)を塞いでしまうので、炎症を起こし、副鼻腔にウミが溜まります。この状態を副鼻腔炎と言います。

子どもの副鼻腔炎(ちくのう症)について知ろう

<しくみ>



<注意したい副鼻腔炎(ちくのう症)の症状>

- 1 黄色で膿性の鼻水が常に出ている
- 2 鼻が臭い
- 3 鼻声
- 4 鼻をかもうとしても上手くかめない
- 5 不機嫌、注意力散漫、睡眠不足、ぐるぐる回る(めまい)を訴える
- 6 発熱が続いている
- 7 「ゴホッ」という痰がらみの咳が続いている。特に起床時



<必ず受診が必要な症状>

下記のような症状が出た場合は、必ず受診が必要です。

- 1 耳の痛みを訴える
副鼻腔炎だけでなく、急性中耳炎も合併して起こった可能性があります。
- 2 ほっぺ(頬部)が赤くなっている、腫れている
副鼻腔炎が、かなり重症化している可能性があります。



●監修 内藤孝司先生



子どもが喜んでくれる病院となるよう、アットホームな雰囲気作りを心がけています。体の不調を取り除くために必要な治療をしっかりと行っていきます。

終みみはなのクリニック

大府柘山:愛知県大府市柘山町3-315 ☎0562-46-3341

◎日・祝、土午後 大高駅前:名古屋市区大高町鶴田61間瀬ビル1F ☎052-621-3314 ◎水・日・祝、土午後 <診療時間>月～金9:30～12:30、14:30～18:30、土9:00～13:00 <http://hiiragi.org>
病院の副鼻腔炎専門サイト<http://fukubikuen.org>

